

## 支 部 長 挨拶

日本気象学会北海道支部の第22期（平成12年度）の理事および支部長をおおせつかりました。

第21期の後半を古川前支部長から引き継ぎ、足掛け2期目の支部長を勤めさせて頂きます。微力ではありますが誠心誠意任期を全うする所存です。

日本気象学会は会員数四千名、予算規模も約1億円で、地球物理学関連学会としては最大級の団体であり活動は多岐にわたっています。特に最近は国際的な研究交流活動が盛んに行われており、今年の7月には国際オゾンシンポジウムが札幌で開かれました。また、2003年にはIUGG（国際測地学地球物理学連合）の総会が札幌で開かれますが、地球物理関係では最大規模といわれるIUGGの4年に1回の総会が当地で開かれることは支部としても大変意義深いことと思います。



北海道支部は、会員が300名に満たない気象学会の中では小さな支部ではありますが、研究交流や情報交換、啓蒙や普及など活発な活動を行っております。

昨年度は、総会、研究発表会、第17回夏季大学講座の他に、10月には北見市で気象講演会を開催しましたが、この講演会では、北見市がご出身で気象学会理事長の廣田勇先生に手弁当で応援の特別講演をしていただき、好評を博しました。また、昨年秋の研究発表会では、初めての試みとして、オゾンをテーマに特別セッションを設け、二人の専門家に招待講演をいただきました。

本年度は、第18回夏期大学講座を去る7月26、27日に開催しました。今回は気象の話題の他に今年3月末に噴火した有珠山の話題を取り上げ、昨年とほぼ同数の40名近い受講者がありました。道内各地を巡回してきた気象講演会は、今年は久しぶりに札幌圏に戻り、10月28日に「北海道の農業と気象」テーマに江別市で開催することとして準備を進めています。

私たち日本人は昔から天気や気象に対する関心が強い民族ですが、最近では気候・環境問題や気象災害への関心が特に高まっています。こうした中で一人でも多くの方が大気現象や気象学に興味をもっていただけるよう、会員の皆様には支部活動へのご協力とご支援をお願いします。

日本気象学会北海道支部  
支部長 **巽 保夫**  
(札幌管区気象台長)